

## 青島神社

### 歴史

古代より神聖な島である青島は、神の住まいとして崇拝されてきました。青島に初めて宗教施設が建てられたのは、平安時代（794～1185年）のことでした。その後、江戸時代（1603～1867年）になると、飢肥藩（現在の宮崎県南部沿岸地域）の大名が社殿の維持・拡張を担当するようになり、現在の形になりました。1737年には、それまで神職や高官以外には禁止されていた島の神聖な岸辺への立ち入りが解禁されました。

### 神々

青島神社は、山幸彦・豊玉・塩槌の三柱の神を祀っています。山幸彦と豊玉姫の恋物語は、日本の神話と歴史を記した8世紀の歴史書である古事記に記されています。狩猟の名人である山幸彦と海神の娘である豊玉は、伝説の初代天皇である神武天皇の祖父母です。物語の中では、塩槌がこの2人の恋人たちを出会わせています。

### 祭り

青島神社では、年間を通して祭りが開催されます。春と秋の例大祭の規模は小さいのですが、夏と冬の例大祭には多くの人で賑わいます。夏祭りは、旧暦の6月17日、18日（現在の7月中旬から8月上旬の間）に行われますが、島を取り囲む船の行進が特徴です。最初の船に神輿を積み込みます。祭りの最後には、若くて元気な参加者たちによって神輿が岸まで担がれます。この祭りは、五穀豊穰を祈願して行われます。

冬祭りでは、山幸彦の神話の一場面を再現します。豊玉姫の父である海神の宮殿にて姫と山幸彦が出会い、2人は3年間宮殿で暮らしますが、やがて山幸彦は鯨の背に乗って故郷である陸へと帰っていきます。到着した山幸彦は大喜びの群衆に迎えられます。1月の第2月曜日に行われる祭りでは、ふんどし姿の参加者が寒波の中に駆け込み、神への挨拶の意味を込めて身を清めます。

### 島

青島は周囲約1.5kmの島で、ほとんどがジャングルのような森に覆われています。島には226種の植物がありますが、そのうち27種は熱帯・亜熱帯の植物です。その中でも最も一般

的なのはビロウというヤシの木で、古くから島と密接に関わってきました。青島は奇妙な形をした岩に囲まれており、遠くから見ると巨大な洗濯板に似ているとされているため、地元では「鬼の洗濯板」と呼ばれています。これらの岩石は、数百万年前に地殻変動や陸地の隆起によって海から出てきたものが、波の浸食によって現在のような畝状になったといわれています。